

# 天下茶屋駅前まちづくり方針

令和6年10月

大阪市西成区役所

# 目 次

はじめに	1
第1章 天下茶屋駅前まちづくり方針の目的及び位置づけ	2
1 まちづくり方針策定の目的	2
2 まちづくり方針の位置づけ	3
3 天下茶屋駅前まちづくりの基本情報	4
第2章 天下茶屋駅前及び周辺の現状・駅前まちづくりの方向性	10
1 西成区内の各エリアの土地利用状況・公共交通	10
2 西成区の人口動向	11
3 西成区の不動産（土地）価格の状況	11
4 駅周辺の主な都市機能立地状況	12
5 西成区のイメージ	13
6 まとめ	15
第3章 天下茶屋駅前がめざすまちの姿	16
1 駅前まちづくりの方針	16
2 西成の新たなまちのイメージの実現に向けた取組テーマ	18
3 天下茶屋駅前まちづくりで求めたいもの	20
おわりに	21

## はじめに

人口減少・少子高齢化は、我が国の経済・社会に大きな影響をもたらす課題のひとつである。

大阪市においても例外ではなく、令和2年3月に更新された「大阪市人口ビジョン」によると、2019年には約274万人だった人口が、2020年頃を境に減少し、2045年に250万人まで減少することが見込まれている。これに対して、仮に、出生率の増加と年間約1万人程度の転入超過傾向の維持を前提とすると、大阪市の総人口は2030年以降、278万人で推移し、概ね、現状の人口を維持することができると見込まれている。

出生率の向上に向けては、子育て支援や教育制度の改革に加えて、親をはじめとする保護者が働きやすい環境づくりや、社会全体で子どもを見守り育てる文化・仕組みづくりなど、多面的な施策が必要である。

また、人口減少・高齢社会に的確に対応したまちづくりとしては、都市機能導入・基盤整備を通して持続可能な地域社会の構築を図るとともに、国内外から多様な人・モノ・情報・資金を呼び込む魅力ある拠点形成により、都市・地域の活力創出に取り組む必要がある。

こうした中、天下茶屋は、令和4年12月に大阪府・大阪市・堺市で策定した「大阪のまちづくりグランドデザイン」の戦略の中で、駅周辺の都市機能の強化とにぎわい創出などによる魅力向上をめざすこととしている。

また、西成区では「まちの活性化・イメージアップ」、「子育て世帯の流入促進」を終局的な目標として、「西成特区構想」において、8分野（貧困、福祉、医療、安全安心、子育て、教育、観光・にぎわい、まちづくり）にわたる取組を進めている。令和5年3月に策定した「第三期西成特区構想」では、特に「子育て」、「教育」に注力するとともに、子育て世帯が魅力を感じる「まちづくり」に新たに取り組むとしており、天下茶屋駅周辺では、現在西成区に若年層の転入が増加していることを特徴として捉え、子育て世帯の定住を含む新たな流入層の受け皿となる取組を進めることとしている。

こうした背景を踏まえ、西成区では、「天下茶屋駅周辺から西成のイメージを変え、大阪を活性化する」ことをめざし、天下茶屋駅前のまちづくりに取り組むこととしており、天下茶屋駅前の市有地を活用し、子育て・教育や文化・地域交流、安全・安心に関する取組を集中的に展開することで、まちが抱える課題を解消しながらイメージ刷新・人口定着・地域活性化を図り、集中的な施策をトリガーとして周辺地域への活性化を促すことで、人口減少・少子高齢化にかかる課題に対し一つの解決策を提示する汎用性のある先導モデルとして、天下茶屋から発信するものである。

# 第1章 天下茶屋駅前まちづくり方針の目的及び位置づけ

## 1 まちづくり方針策定の目的

西成区では、平成25年度から、「まちの活性化・イメージアップ」、「子育て世帯の流入促進」を終局的な目標として、「西成特区構想」の取組を進めてきた。令和5年3月に策定した「第三期西成特区構想」では、これまでのあいりん地域中心であった取組を西成区全体に広げ、人口減少に歯止めをかけるため、「若年層の転入増加」と「子育て世帯の転出減少」をめざすこととし、「子育て」、「教育」については、子育て世帯の幅広いニーズを満たす事業へと再構築のうえ、ゆくゆくは「子育てするなら西成区」と評価されることをめざし、各種の取組を実施していくこととしている。

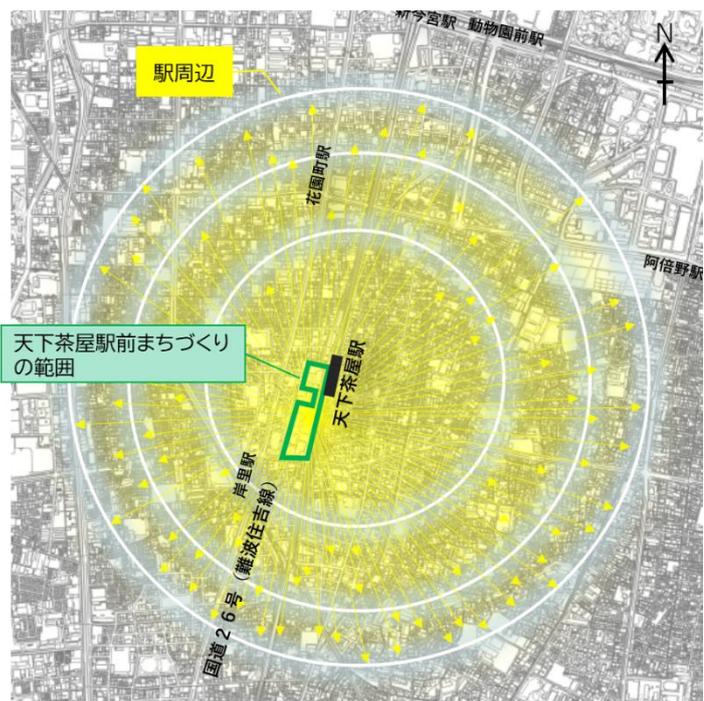
また、「まちづくり」としては、子育て世帯が魅力的に感じるまちづくりに向け、天下茶屋駅周辺について、若年層や、子育て世帯といった新たな流入層の受け皿となるよう、取組を進めることとしている。

天下茶屋駅周辺徒歩10分圏内の地域（以下、「駅周辺」という。）には、西成区の約半数となる4.8万人が居住しており、区の居住地域を支える重要な拠点である。また、2031年に開業予定のなにわ筋線で新大阪、うめきたにつながることで、さらなる利便性の向上も見込まれる。

この契機を捉え、駅周辺について、さらに利便性の高い居住地となるようまちづくりを行い「住みたいまち」「住み続けたいまち」を実現することで、「若年層の転入増加」と「子育て世帯の転出減少」へとつなげ、子育て世帯の定住を促進する西成区の新たなまちづくりの拠点になるよう検討を進めるとしている。

駅周辺に新たな居住者を呼び込むためにも、まちの玄関口である天下茶屋駅前については、2031年のなにわ筋線開通を見据え、市有地を中心に、子育て・教育や生活利便性向上を支える複合的な機能の集積を図るとともに、文化やスポーツを楽しむ環境を充実させ、駅周辺に安全・安心に長く住み続けられるまちの「核」となるよう、魅力向上をめざした戦略的な取組を行う必要がある。今般、まちづくりの基本的な方向性と姿を示した「天下茶屋駅前まちづくり方針」を取りまとめることとした。

### ■ 天下茶屋駅前まちづくりの効果の波及（イメージ）

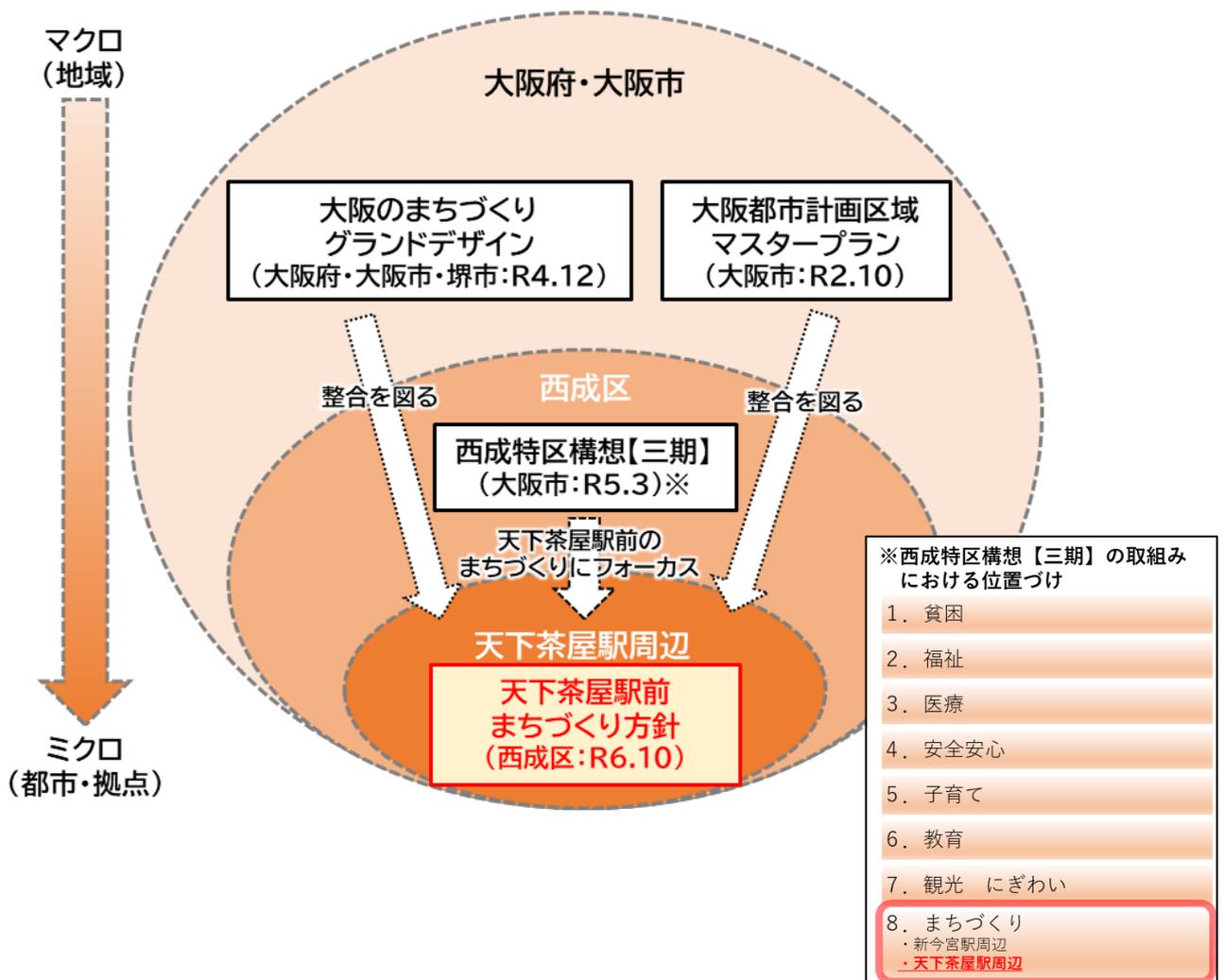


## 2 まちづくり方針の位置づけ

本方針は、西成特区構想に基づく各種施策の実施方針のうち、天下茶屋駅周辺を中心とする駅前まちづくりにフォーカスした基本指針である。なお、よりマクロな視点での大阪都市圏のまちづくりの方向性を示す、「大阪のまちづくりグランドデザイン」「大阪都市計画区域マスタープラン」との整合を図る。

- ・駅周辺への都市機能の集積、駅前における人中心の空間への転換、都市ストックの再編、新たなモビリティの活用による移動手段の充実。(大阪のまちづくりグランドデザイン)
- ・鉄道駅周辺等においては、交通の利便性を考慮して住宅と業務・商業施設等との複合利用を進める。(大阪都市計画区域マスタープラン)
- ・将来に向けた投資プロジェクトとして子育て世帯の定住を促進するための西成区の新たなまちづくりの拠点。(西成特区構想【三期】)

### ■ 天下茶屋駅前まちづくり方針の位置づけ



### 3 天下茶屋駅前まちづくりの基本情報

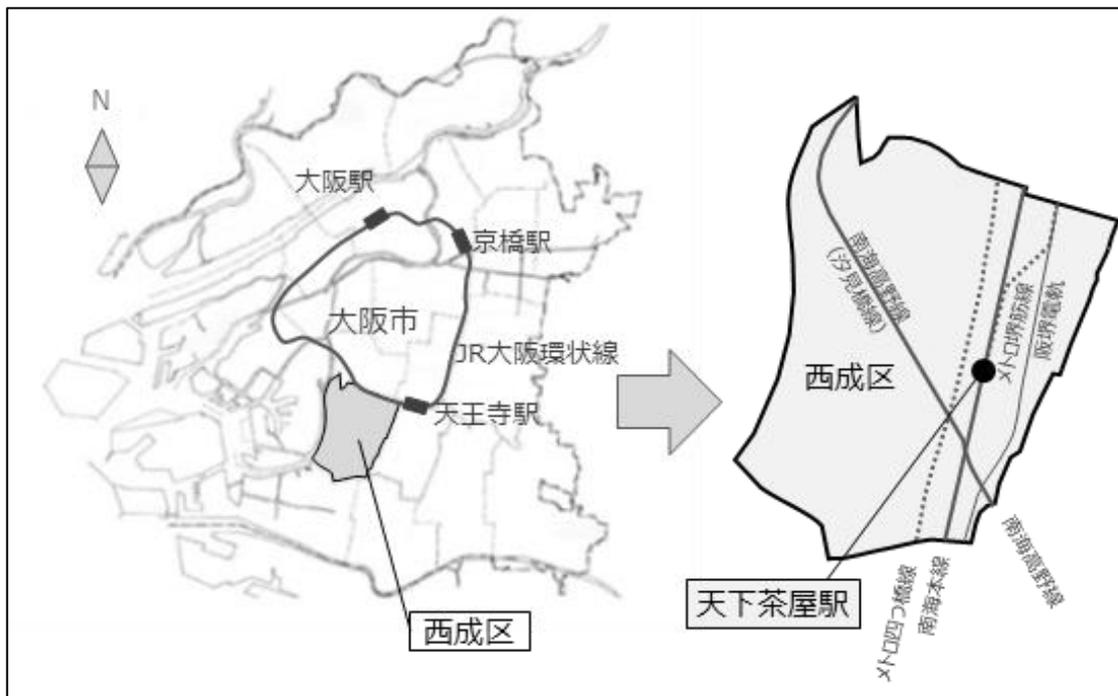
#### 1) 西成区及び天下茶屋駅の立地

西成区は大阪市南西部に位置しており、北に浪速区、東に阿倍野区、南に住之江区、木津川を挟んで西に大正区が隣接している。

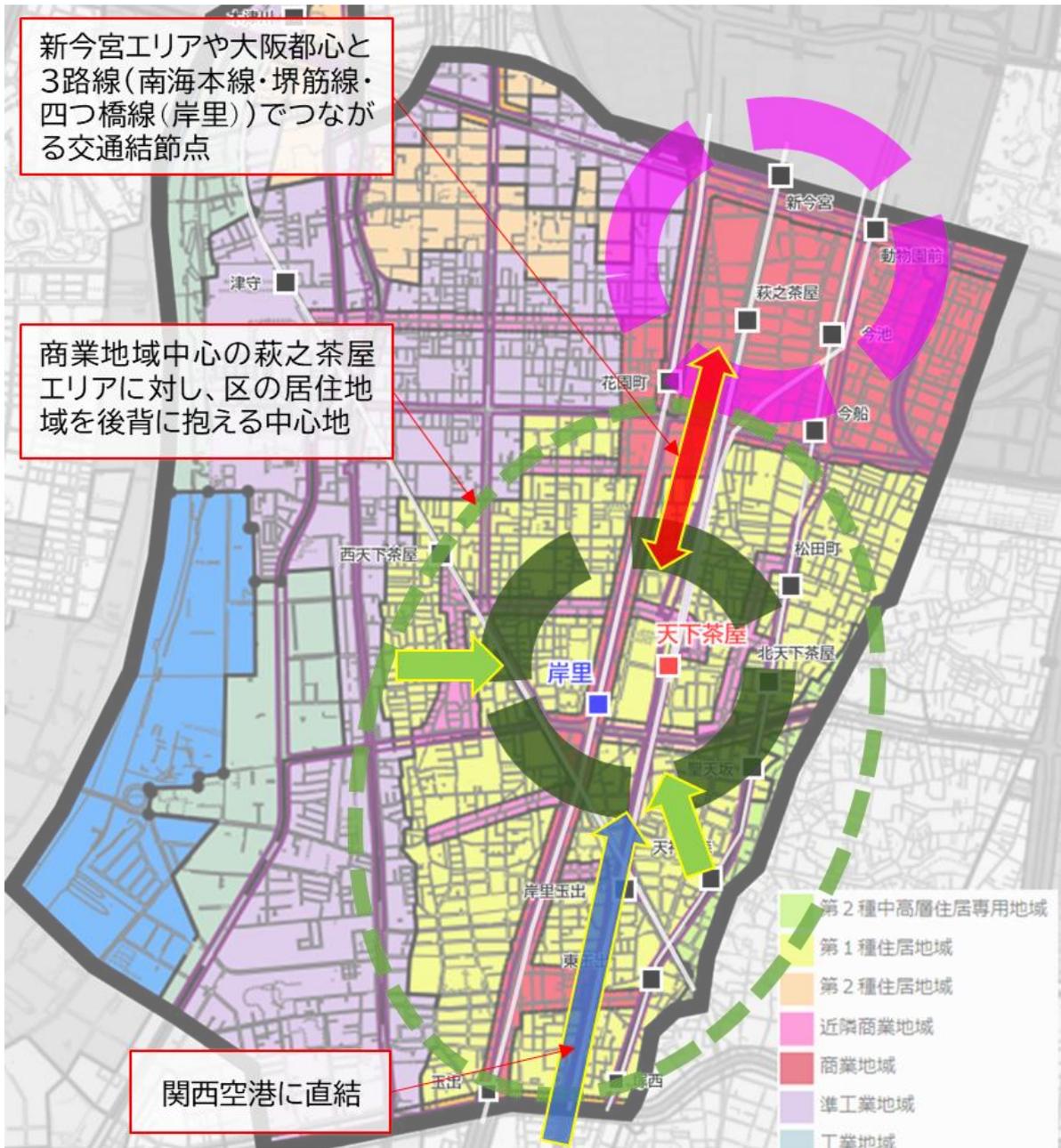
国道26号・43号などの幹線道路、Osaka Metro・JR・南海電鉄、阪堺電気軌道が主に南北方向に運行し、大阪市の都心部や関西空港をはじめ、京都など、他県へのアクセスに適した交通至便な住宅地であり、商工業のまち、庶民的なまちとして発展してきたことから、今なお人情豊かな下町の風情が残っている。

天下茶屋駅は西成区のほぼ中央部に位置しており、南海電鉄（南海線・高野線）及びOsaka Metro 堺筋線の3路線が乗り入れている。

#### ■ 西成区及び天下茶屋駅の位置図



■ 西成区における天下茶屋駅前の位置づけ

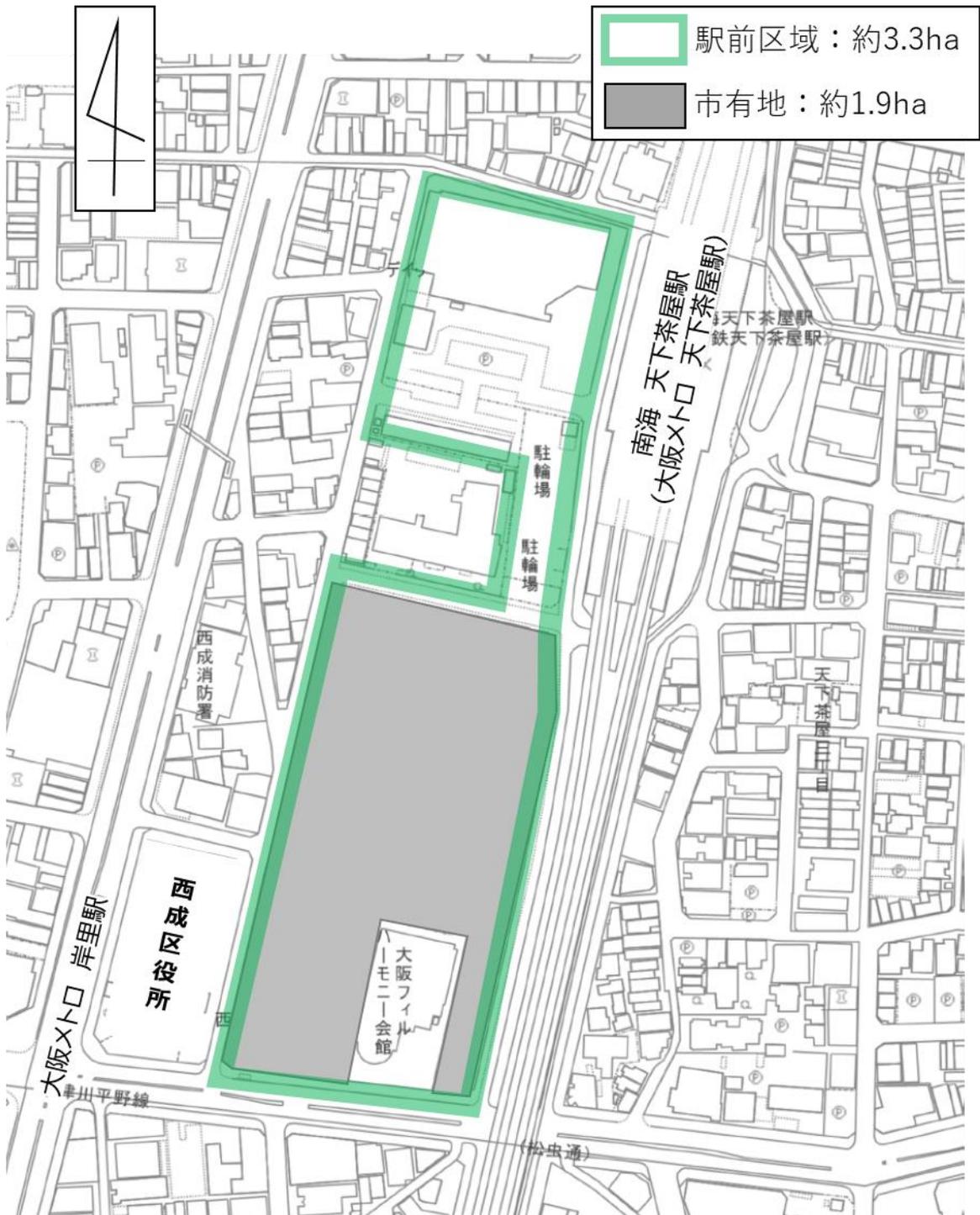


## 2) 天下茶屋駅前まちづくりの範囲

本方針で検討対象とする範囲（以下、「駅前区域」と言う。）は、下図に示す天下茶屋駅西側の市有地（約 1.9ha）及び民有地を含む区域としている。

駅前区域は、かつて南海電鉄天下茶屋工場が立地していた場所であり、現在は市と民間がそれぞれ土地を所有・活用している。

### ■ 駅前区域と市有地範囲



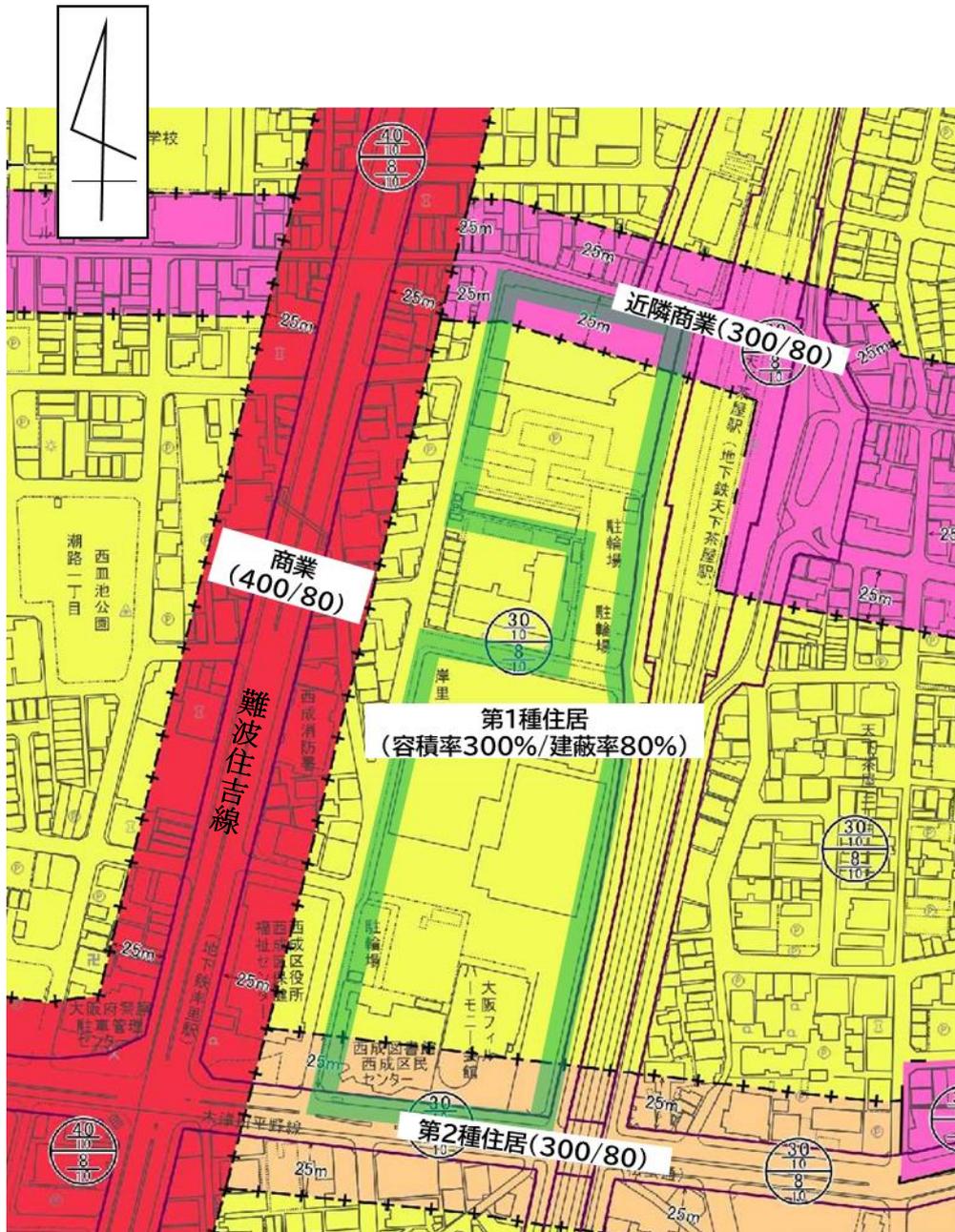
### 3) 都市計画等の状況

駅前区域及び周辺の用途地域指定状況は、下図のとおりである。

中央部が「第1種住居地域（容積率 300%/建蔽率 80%）」に指定されており、北側沿道は「近隣商業地域（容積率 300%/建蔽率 80%）」、南側沿道は「第2種住居地域（容積率 300%/建蔽率 80%）」に指定されている。

その他、駅前区域西側にある難波住吉線沿いは「商業地域（容積率 400%/建蔽率 80%）」に指定されている。

#### ■ 用途地域指定状況図



#### 4) 駅前区域周辺の道路状況

駅前区域周辺の道路状況は下図のとおりである。

東側道路（南海本線附属街路2号線）は、北への一方通行となっており、民有地側は片側歩道、市有地側は両側歩道が整備されている。

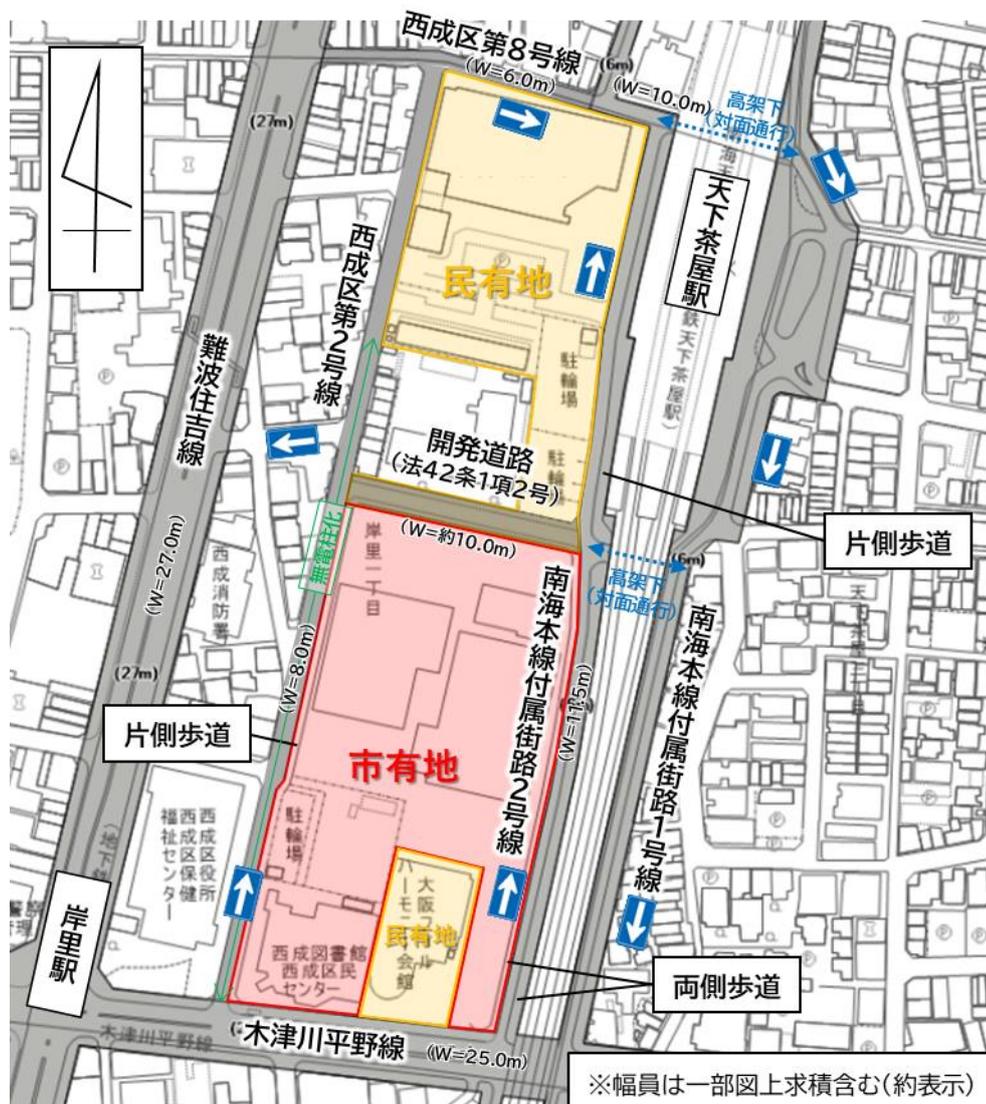
西側道路（西成区第2号線）は、西成区役所との間のみ一方通行となっている。また、市有地の一部用地を抛出して道路を拡幅し、無電柱化により道路が整備されている。

南側道路（木津川平野線）は、幅員 25m（4車線、両側歩道）の広幅員道路である。

北側道路（西成区第8号線）は、難波住吉線からの一方通行となっているが、天下茶屋駅の高架下は対面交通となっている。

その他、駅前区域内を東西につなぐ開発道路（幅員 10m、建基法第 42 条 1 項 2 号、一般車両は通行不可）が民有地内に整備されている。

#### ■ 駅前区域周辺の道路状況図



## 5) 駅前区域の施設立地状況

北側の民有地には、スーパー・ドラッグストア・飲食店等を併設する複合商業施設や飲食店・クリーニング店が軒を連ねている。また、天下茶屋駅の自由通路正面には民間運営の駐輪場が立地している。

南側の市有地は大部分を民間に貸付しており、インドアテニススクール・全天候型ドーム施設が立地している。また、木津川平野線沿いに「西成区民センター・図書館」、西成区役所東側に公設の駐輪場及び花づくり広場（種花（「種」から育てる地域の「花」づくり）事業の拠点）が立地している。

また、駅前区域にはプロオーケストラの練習場である「大阪フィルハーモニー会館」があり、大阪フィルハーモニー交響楽団の活動拠点となっている。

### ■ 駅前区域内の施設立地状況



## 第2章 天下茶屋駅前及び周辺の現状・駅前まちづくりの方向性

西成区・駅周辺・駅前区域の現状（地域の特性・動向）を把握し、天下茶屋駅前まちづくりの方向性を定める。

### 1 西成区内の各エリアの土地利用状況・公共交通

#### 【現状】

##### <土地利用>

- ・ 新今宮エリア（新今宮駅・動物園前駅周辺）は商業機能を中心に集積。
- ・ 天下茶屋エリア（天下茶屋駅・岸里駅周辺）は小規模な住宅を中心に住居機能が集積。
- ・ 玉出エリア（玉出駅・岸里玉出駅周辺）も同様に小規模な住宅を中心に住居機能が集積。

##### <公共交通>

- ・ 公共交通は電車・バスともに南北方向を中心に設定。
- ・ 天下茶屋駅の1日乗降客数は約15万人（乗換含む、令和元年度大阪府統計年鑑）。新今宮駅に次ぐ区内2番目の乗降客数。
- ・ 天下茶屋駅－岸里駅は直線距離で300mと至近距離に立地。
- ・ 南海天下茶屋駅は南海線の特急停車駅、Osaka Metro 天下茶屋駅は堺筋線始発駅。天下茶屋駅から阪急電鉄淡路を經由して京都河原町に至るルートで京都に一直線でアクセス可能。
- ・ 岸里駅は西成区役所直結。四つ橋線で住之江⇄なんば⇄梅田へアクセス可能。乗換で臨海部へもアクセス可能。

#### 【まちづくりの方向性】

- 駅前区域のまちづくりでは、**区内第2位の乗降客数を誇る天下茶屋駅があり、周辺には住居機能が集積している**といった天下茶屋エリアの特性を活用する必要がある。
- 天下茶屋駅は、広域アクセスルートが充実しており、1日約15万人の乗降客数を誇るものの、駅利用者のお大半は、南海とOsaka Metroの乗換利用者であり、そういった駅利用者を駅前区域に**誘引するため、多くの幅広い来訪者を視野に入れた仕掛けづくり**が必要である。
- また、駅前区域は天下茶屋駅と岸里駅を動線として繋ぐだけでなく、**一体性のあるまちのにぎわいを創出する**ことが必要である。

## 2 西成区の人口動向

### 【現状】

- 西成区の人口は減少傾向にあったが、令和4年から令和5年の2年間はほぼ横ばいに推移し、微増傾向にある。
- 転入・転出を要因とした人口増減は直近 10 年間にわたり増加を維持。
- 令和 3 年(2021)においては 20 歳代前半の転入増加が顕著。また、20 歳代後半は毎年転入人口が増加している。
- 一方で、20 歳代後半から 30 歳代前半(子育て世代)は毎年転出人口が増加し、また 0～9 歳の転出も多い。
- 外国人は、20～24 歳の増加が見られる。
- 西成区では大阪市内平均と比べ、出産年齢が低い傾向。

### 【まちづくりの方向性】

- **転入増加傾向にある 20 歳代の流入をさらに加速**させると同時に、近年増加している**子育て世代の転出を抑制**するための仕掛けづくりや機能の導入が必要である。
- 日本人、外国人を問わず、転入増加がみられる 20 歳代前半が地域に定着するよう、多様な方が住み続けたいくなる**生活利便性の充実**が必要である。

## 3 西成区の不動産（土地）価格の状況

### 【現状】

- 西成区の不動産(土地)取引価格は市内 24 区内でも価格が抑えられている傾向にあり、特に駅勢圏(徒歩 10 分圏内)においては顕著。都心部へのアクセス性を考慮しても特に価格が抑えられている状況。

### 【まちづくりの方向性】

- 西成区の不動産(土地)価格と都心部へのアクセス性に鑑み、**駅周辺における住宅需要を喚起し、価値向上を図るためのトリガー**となるまちづくりを実現する必要がある。

## 4 駅周辺の主な都市機能立地状況

### 【現状】

#### <民間機能>

- 生活利便施設のうち、総合小売店や飲食店は、駅前区域や商店街に多く立地。その他、生活必需品・日用品・サービスを扱う店舗も一定数立地。
- 特に飲食店は安価で気軽に飲める立飲み屋などが天下茶屋商店街を中心に立地しており、天下茶屋で飲み歩く行為は「ガチャ飲み」と呼ばれ親しまれている。
- ジム等の施設が難波住吉線沿いを中心に立地。
- 医療施設（病院～総合病院）は高い密度で満遍なく立地。福祉施設も一定程度の間隔で立地。
- 天下茶屋駅周辺にも観光資源が点在しており、駅南側には地名由来の史跡も存在。

#### <公的機能>

- 幼稚園・保育園・保育所の立地は限定的。学校施設はバランスよく立地。
- 西成区役所や区民センター・図書館も立地するなど、地域住民の日常生活に欠かせない施設が集積。一方、公園（広場空間）は駅前区域周辺では少ない傾向。
- 駐輪場が駅前区域内を中心に3箇所立地し、民間運営の駐車場が27箇所立地。

#### <都市基盤>

- 天下茶屋駅から駅前区域への歩行者動線は、安全でスムーズな動線が十分確保されているとは言えない。
- 駅前区域内は、商業系用途地域の範囲が小さく、駅前区域内及び後背地には住居系用途地域が広がっている。
- 駅周辺のうち、駅前区域内には、文化施設として大阪フィルハーモニー会館が立地。大阪フィルハーモニー交響楽団の本拠地であり、プロ奏者の練習の場として利用されている。
- また、大阪フィルハーモニー交響楽団は、西成区と連携し、西成区魅力発信事業として出前授業により西成区内の各小・中学校でプロ奏者による生演奏とワークショップを実施。
- 駅前区域内の市有地の一部は、定期借地によりインドアテニススクール・全天候型ドームのフットサル施設が立地。地域住民のほか、区外からの利用者も多く、天下茶屋駅前への来街のきっかけの一つとなっている。

### 【まちづくりの方向性】

- 現在、駅前区域に存在する、区民センター、図書館、大阪フィルハーモニー会館やスポーツ施設が生み出してきた地域の文化の**相互連携、相乗効果を生み出すような活用**が必要である。
- 様々な目的をもつ人が集まれる駅前立地という強みを生かした、**生活・交通拠点としてふさわしい土地利用を展開し、機能を強化していく**必要がある。
- 高度利用が望ましい駅前において、駅周辺の住宅地を支える拠点性を確保するためには、**駅前を駅周辺の生活圏の中心地として広域的視点で捉える**とともに、**まちの将来性や持続可能性を念頭においたまちづくりを行う**必要がある。

## 5 西成区のイメージ

### 1) 強み・弱みを踏まえたイメージアップ戦略の検討

#### 【現状】

- 強みは、「交通利便性の高さ」と「家賃・土地の安さ」「飲食店の充実」のイメージを多く持たれていること。
- 弱みは、「おしゃれ」「治安の良さ」「子育てしやすさ」のイメージが薄いこと。「子育てしやすさ」のイメージが薄い理由は「事故・犯罪への不安」「区のイメージ」等の心理的要因が多い。
- 西成区の強みや弱みについて、西成区民と西成区以外の市区民でイメージギャップが大きく、西成区民は、特に「交通利便性が高い」と感じているとともに、「治安の良さ」「子育てしやすさ」のイメージにおいても西成区以外の市区民と比べて、良いイメージを持っている。
- 天下茶屋駅周辺においても、強み、弱みともに、西成区全体と同様のイメージだが、全体的に良いイメージを持たれる傾向。特に「治安の良さ」は西成区全体と比べて良いイメージ。また、駅利用頻度が高い人ほど「交通利便性が高い」イメージをもつ傾向。

※当区実施の「西成区のイメージ・需要」に関するアンケート調査の結果に基づく

#### 【まちづくりの方向性】

- 「交通利便性の高さ」「飲食店の充実さ」などの**強みを維持・成長**させながら、「治安の良さ」「子育てしやすさ」などの**弱みを改善**し、イメージの良い天下茶屋駅前から駅周辺、ひいては**西成区全体のイメージアップ**をけん引していく必要がある。
- 西成区民と、西成区以外の市・区民との**心理的なイメージギャップを埋める**ため、「事故・犯罪への不安」を解消し、**良いイメージを駅前から発信**していく必要がある。

## 2) 市民・来訪者等の需要を踏まえたまちづくり

### 【現状】

#### <住みたくなる・住み続けたいための機能>

- ・ 住みたくなる・住み続けたいするためには、「生活サービス機能」や「交通結節機能」「居住機能」を求める傾向。
- ・ 子どものいる世帯は、上記のほか「子育て支援機能」を求める傾向。
- ・ その他、20代から40代は「防災・減災機能」や「飲食・娯楽・レジャー機能」を求める傾向。50代以上は「交流機能」や「スポーツ機能」を求める傾向。

#### <訪れたいための機能>

- ・ 訪れたいためには、「飲食・娯楽・レジャー機能」を求める意見が最も多く、次に「交通結節点機能」、「生活サービス機能」を求める傾向。
- ・ 子どものいる世帯は、上記のほか「交流機能」「子育て支援機能」を求める傾向。
- ・ その他、50代以上は上記のほか「交流機能」を求める傾向。駅利用頻度が高い方は上記のほか「スポーツ機能」を求める傾向。

※当区実施の「西成区のイメージ・需要」に関するアンケート調査の結果に基づく



### 【まちづくりの方向性】

- 市民・来訪者等の需要を踏まえつつ、めざしたいまちの将来像及びターゲット層を踏まえた土地利用の展開及び機能の導入を行う必要がある。

## 6 まとめ

現在、西成区では、20歳台前半の人口増加が見受けられるものの、子育て世代になると、周辺区や他都市へ転出される傾向にある。駅前区域では、子育て世代にも引き続き定住してもらえる仕掛けや、また、外国人若年層の転入についても増加傾向にあることから、多様な人々が暮らしやすいまちをめざすことが必要である。

現在の天下茶屋駅前及び駅周辺地域には、一定の生活利便施設が整っており、天下茶屋駅の交通利便性が高いといった、居住地としての強みがある。また、駅前区域には、区民センターや図書館、大阪フィルハーモニー交響楽団の本拠地やスポーツ施設といったまちを訪れるきっかけとなる施設が立地しており、一定数の区内外の幅広い方が利用されている。

一方で、天下茶屋駅の乗降客は大半が南海、Osaka Metro間の乗換利用者であること、現在駅前区域に存する施設の利用者が、プロの音楽演奏者や、特定のスポーツを楽しむ方が中心といった、単体での施設利用が多いことも事実である。

現存する地域の特性を最大限発揮するためには、天下茶屋駅前まちづくりをきっかけとして、地域に根付く文化（音楽・スポーツなど）と新たに設置する機能を融合し、相互連携させることで、まちの魅力向上を図り、駅前に来街者が増え、交流が生まれ、にぎわいを生み出すまちをめざす必要がある。

また、気兼ねなくまちを訪れ、まちを知ってもらい、「住みたいまち」「住み続けたいまち」と思ってもらうためにも、心理的イメージの改善も含めたまちづくりが必要であり、西成区のネガティブイメージを覆すため、駅前にふさわしい高度利用を図り、魅力的な機能を集積するなど、天下茶屋の魅力さをさらに高め、周辺地域に波及させることで、若者や子育て世帯の定住を促進する。

### 波及イメージ



## 第3章 天下茶屋駅前がめざすまちの姿

### 1 駅前まちづくりの方針

天下茶屋駅前まちづくりでは、「第三期西成特区構想」がめざす「若年層の転入増加」と「子育て世帯の転出減少」に向けて、トリガーとなる戦略的な土地活用を図るため、以下のようにまちづくりの方針を定める。

#### 「第三期西成特区構想」のめざすところ

転入のさらなる増加と転出の抑制により、人口減少に歯止めをかける  
とりわけ「若年層の転入増加」と「子育て世帯の転出減少」をめざす

#### 「天下茶屋駅周辺」

天下茶屋駅前については、2031年のなにわ筋線開通を見据え、天下茶屋駅前市有地を中心にこのエリアの魅力向上をめざし、子育て世帯の定住を促進するため、西成区の新たなまちづくりの拠点になるように検討を進めていく。

駅前区域が、天下茶屋駅周辺の「核」となり、  
まちづくりのトリガーとして、変化を先導する。

#### 「駅前まちづくり方針」

#### 西成の新たなまちのイメージを「天下茶屋が先取り」

⇒天下茶屋から発信し、周辺へ効果を波及させ、若者、子育て世帯の増加をめざす

天下茶屋駅前に新たな西成区・天下茶屋のまちを創造し見せていくことで、区内の住民をはじめ、区外の多くの人に知ってもらい、西成区のイメージを変えていく。

若年層や子育て世帯を呼び込むための西成の新たなまちのイメージとは・・・

若年層が新たな生活をスタートさせるときから、結婚や出産によりライフステージが変わっても西成区内に住み続けたいとなるような、子育て支援・教育支援が充実し、様々な学びの場がある「子育てしやすいまち」「教育が充実したまち」。

そして、子育て世帯をはじめ、多様な人々を支える住環境の充実した「生活利便性が高いまち」。

駅前に地域住民や沿線をはじめ様々な人々が訪れ、交流することで、「文化や魅力が創造・発信されるまち」。

そして、地域住民の愛着や誇りを高め、駅の乗降客が立ち寄りたくなる、人を引き付ける景観を備え、高度利用された「駅前にふさわしいにぎわいが生まれるまち」。

新たなまちに気兼ねなく訪れてもらうためにも、移動に便利で、安全にまちを回遊でき、誰もが安心できる空間づくりを実現した、「安全・安心を体感できるまち」。

西成の新たなまちのイメージ

「西成の新たなまちのイメージ」

安全で安心な子育て・教育環境と、文化(音楽・スポーツなど)に触れることができる、来たい、住みたい、子育てしたい憧れのまち

## 2 西成の新たなまちのイメージの実現に向けた取組テーマ

新たなまちのイメージの実現に向け、駅前区域での土地利用や都市機能導入などに関するテーマを、以下の通り立案する。

### 取組テーマ1：子育て・教育

「子育てしやすいまち」「教育が充実したまち」

「生活利便性が高いまち」

### 取組テーマ2：文化（音楽・スポーツ）

「文化や魅力が創造・発信されるまち」

「駅前にふさわしいにぎわいが生まれるまち」

### 取組テーマ3：安全・安心

「安全・安心を体感できるまち」

### 取組テーマ1：子育て・教育

- ◆ 西成区の中心地であり、なにわ筋線開業により利便性がさらに向上する立地を活かして、子育て・教育しやすいまちとして、単身の若者やこれから子どもを産み育てようとされている方、すでに子育てされている方など、すべての方に認知され、ライフステージが変わっても住み続けたいと思えるようなまちをめざす。
- ◆ また、近年増加傾向にある外国籍住民の方も、西成区に定住し子育てしたくなる、多様な人々が暮らしやすい多文化共生にも対応したまちをめざす。
- ◆ 西成特区構想を背景とした西成区全域における学力向上等の取組を強化していくことに加えて、音楽やスポーツという地域の文化を活かした教育をまちづくりに取り込み、特色のある駅前を創造する。
- ◆ 子育て世帯の生活を支えるため、直接的な子育て支援機能だけではなく、忙しい現役世代の共働きや余暇をサポートする生活利便機能の充実を図る。

### 取組テーマ2：文化（音楽・スポーツ）

- ◆ 駅前区域は、大阪フィルハーモニー交響楽団の本拠地が隣接していることや、既存の土地活用により定着したスポーツできる場所といった地域に根付いた文化があり、これら音楽やスポーツをより発展的に活用し、まちの魅力を高めることで、さらなる来街者の目的地となり、新たな交流やにぎわいを誘引するコアとして、まちの活性化につなげることを企図する。
- ◆ あわせて、駅乗降客をはじめとした来街者を迎え入れるための、人を惹きつけ、まちを訪れる人々に、西成の新たなイメージを印象付ける景観形成を図る。

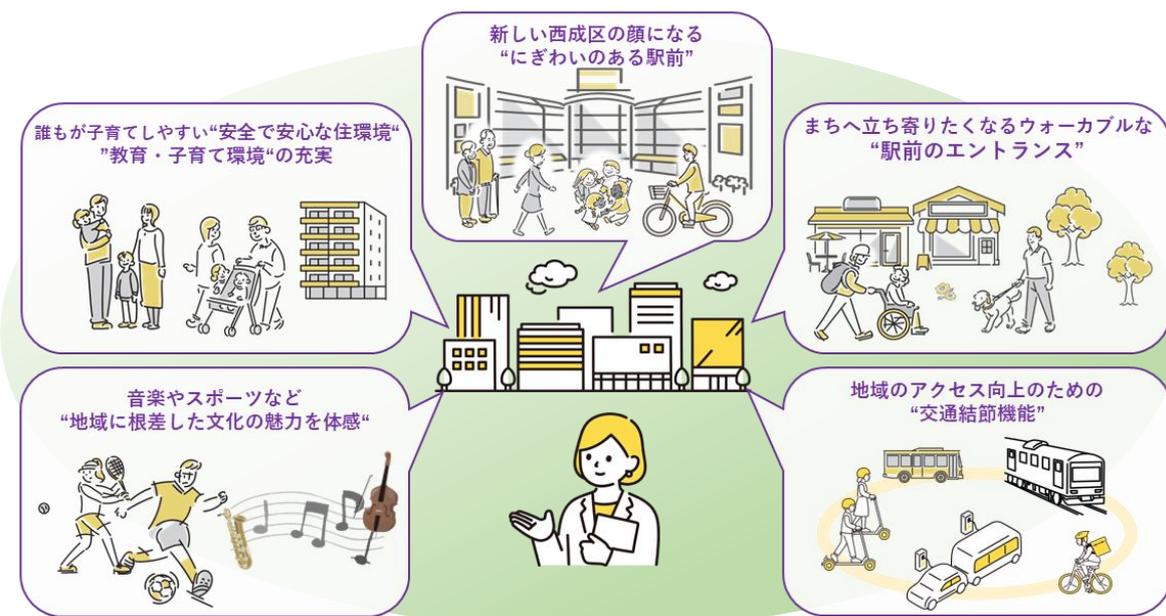
### 取組テーマ3：安全・安心

- ◆ 子育てしやすく住み続けたいまちのイメージの定着・促進を図るうえでは、先に掲げた取組テーマに加えて、子どもから大人まであらゆる人が安全で安心を実感できる空間形成を図り、人と人が関わり合い、安心して暮らしていけるまちのイメージを発信して、広く認知してもらうことが大切である。そのためにも、駅前区域に安全で安心して訪れることができ、回遊性の高い、車両との接触機会の無い安全な歩行者空間の創出等に向けた都市基盤の強化に取り組むとともに、よりきれいで、犯罪抑止にも期待でき、安心して過ごせる空間づくりをめざす。
- ◆ さらには、駅前のまちづくりの効果を周辺地域にも波及させ、区全体の生活環境の向上、定住・流入促進につなげるため、周辺地域から複合機能が集積した駅前区域へのアクセス利便性向上や広場機能を備えた交通結節機能の導入をめざす。

### 3 天下茶屋駅前まちづくりで求めたいもの

#### ■ 3つの取組テーマに応じた天下茶屋駅前まちづくりで求めたいもの

- 西成区の中心地かつ利便性がさらに向上する立地を活かし、新しい西成区の顔になるような“にぎわいのある駅前”を創造すること
- 誰もが子育てしやすい“安全で安心な住環境”を整備し、“教育・子育て環境”を充実すること
- 音楽やスポーツなど“地域に根差した文化の魅力”を体感”できるような特色のある駅前を創造すること
- 来街者を迎え入れ、まちへ立ち寄りたくなるようなウォーカブルな“駅前のエントランス”を創造すること
- 周辺地域から駅前区域へのアクセス利便性向上のための“交通結節機能”を導入すること



※図はイメージです

## おわりに

「天下茶屋駅前まちづくり方針」は、当地区のまちづくりの実現に向けた基本指針となるものである。

今後、この基本指針に基づき、人口減少・少子高齢化といった、諸課題の解決策を提示する先導モデルとなるよう、検討を深めることとし、2031年（令和13年）のなにわ筋線開通を見据えて、まちづくりを進めるものである。